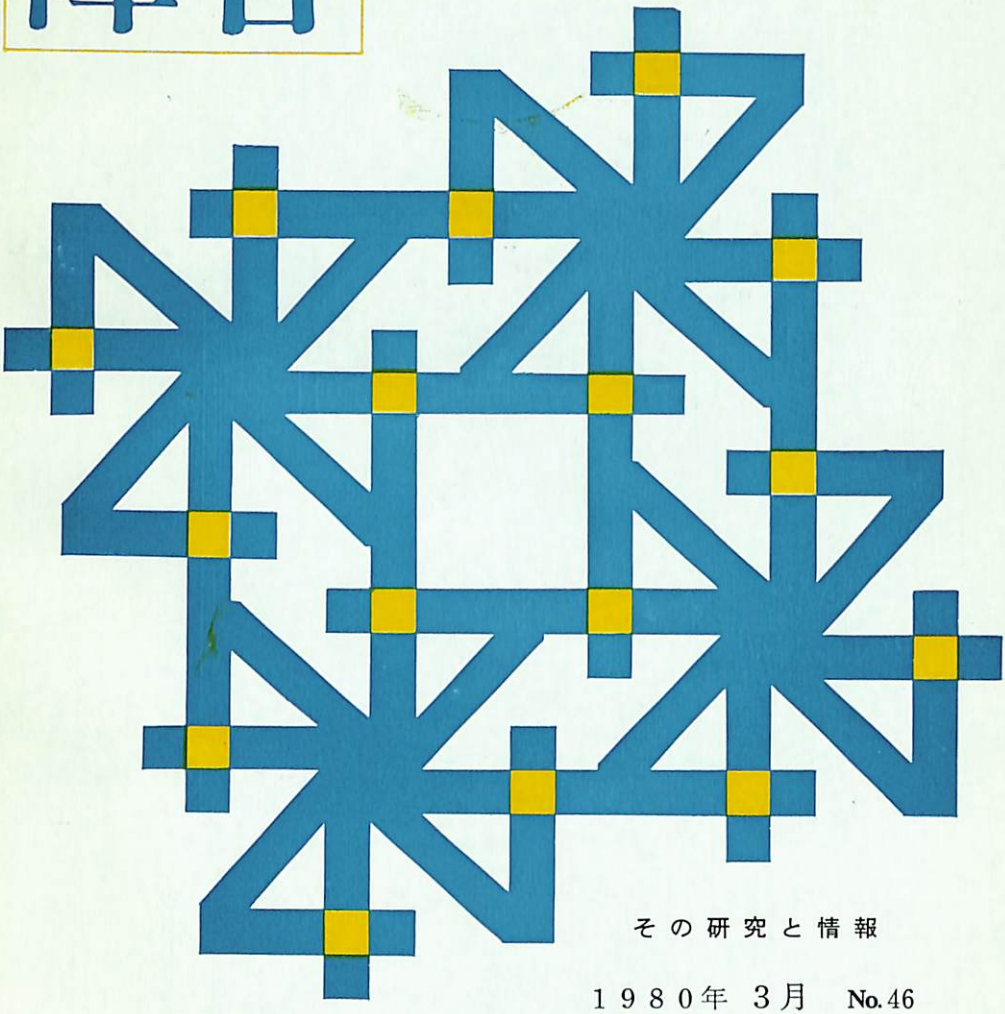
視覚障害



その研究と情報

1980年 3月 No.46

ISSN 0385—7476

＊人生の意味を問い
若い人々の明日をひらく

岩波ジュニア新書

既刊／12冊 ◆ 新書判・平均224頁〈毎月1冊刊行〉

1 **思春期の生きかた** —からだとこころの性 石田和男著 四八〇円

2 **ベートーヴェンの生涯** 山根銀二著 四八〇円

3 **わたしの少女時代** 池田理代子・宮城まり子・石垣綾子ほか著 四八〇円

4 **映画つくりの実際** 新藤兼人著 四八〇円

5 **東京が燃えた日** —戦争と中学生 早乙女勝元著 四八〇円

6 **1945年8月6日** —ヒロシマは語りつづける 伊東壮著 四八〇円

7 **鎌倉史跡見学** 沢寿郎著 四八〇円

8 **テレビは変わる** 岡村黎明著 四八〇円

9 **詩のこころを読む** 茨木のり子著 四八〇円

10 **高校生になったら** —学力・体力・生活力 田代三良著 四八〇円

11 **カレンダー日本史** —一日一史話 永原慶二編著 五五〇円

12 **絵の前に立って** —美術館めぐり 中山公男著 四八〇円

全面改訂《第三版》—判型・文字を大きくし、引きやすくなった

岩波国語辞典 第三版

■西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫編 特価一三八〇円（期限＝4月30日）
B6新判・特製ビニール装・上製函入・一二六八頁 定価＝一五〇〇円

単なる言いかえでなく、語の根底にひそむ基本的な意味を解明し、簡明な注釈と適切な用例により、微妙なニュアンス、正しい用法を示す。本辞典のこの特色は、つとに教育の現場をはじめ各方面に広く迎えられて来ました。今回もこの編集方針は堅持しつつ、時代とともに生きる辞典として、全面的な改稿を行い、内容を一新しました。巻末に当用漢字表と常用漢字表案との異同を表示。

岩波書店 〒101 東京千代田一ツ橋
振替番号〈東京〉6-26240

お求めの岩波書店の出版物が小売書店の店頭にない場合は，その書店にご注文下さい．

陶芸

千葉県立千葉盲学校

コンプレックスなんか　ふきとばしてしまった

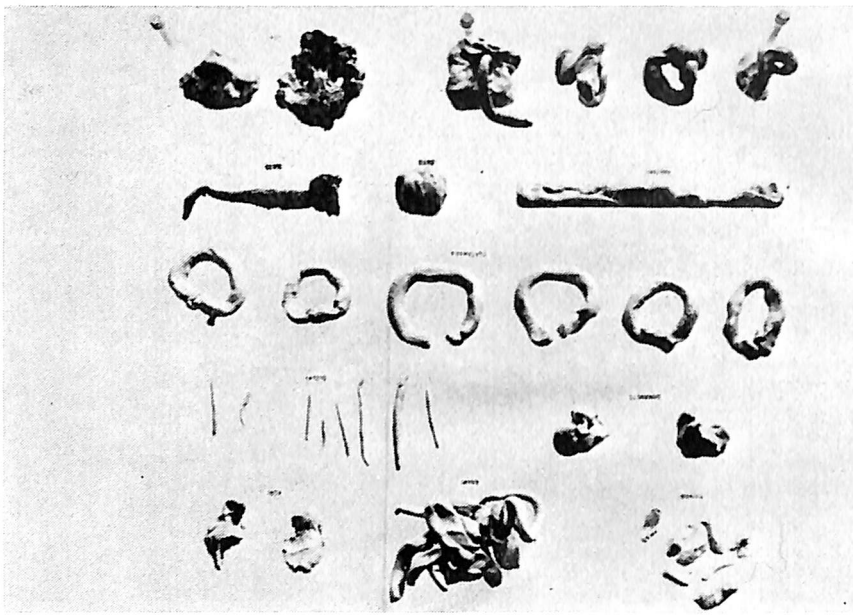
東京ガス主催の「陶芸コンクール」では最優秀賞他、郵政省主催の「私のアイディア貯金箱」では関東郵政局長賞他を、と、このところいつも上位に入賞している。『見える見えないは、関係ないです。それを、子供たちは分ってきています。周りの人たちも分ってくれたら、と思います』と、美術主任の西村先生はおっしゃる。その延長上に、県立美術館での陶芸展がある。“あれを見て、感動した”という感想がどっさり寄せられた。

玄関を入ると、右にも左にも正面にも棚や台があって、30ｃｍから50ｃｍのドンとボリュームのある焼物が目にとびこんでくる。

'79. 7/1～22、千葉県立美術館での陶芸展

制作中の子供たち

重複障害の子供たちも作る



『視覚障害と別の障害との重複は、とても大きい障害なのです。本人自身が内部に、表現すべきものを何も持っていないわけではないのですが、それは、きわめて弱いのです。したがって、それを外に表わして、形にしていくのはとてもむずかしい。作るものの変化、進歩ということになると、それは遅々としたものです。それを、少しずつ引き出し、伸ばしていくことは必要だけれど、本人自身のテンポを無視して指導する者が手を加えて作品に仕上げることはしません。彼らの作ったものが、おだんごであっても、ドーナツであっても、今現在の彼らの作ったものを、そのままの形で作品とし、陶芸展にも出品したのです。』

こう話して、重複障害児の作品を見せて下さった西村陽平先生は、日本陶芸展（毎日新聞社主催）でS.52年に前衛部門の外務大臣賞を受けた陶芸の第一人者でもあるのでした。

写真協力　西村　陽平

文　よしだあきこ

目　　次

1980年 3月 №46

2ページ評論……藤原　正人…2

特集　重複障害盲児　今日と明日

ルポ・重複障害の子ら……竹内　恒之…5

重複盲児の進路……鴨下　長治…20

重複盲成人の処遇の問題点と実践……杉野　義次…37

人・人・人　　横浜訓盲院理事長　今村幾太先生……44

先人の叡智（その8）……48

施設紹介　　重度身体障害者授産施設　明和寮……53

インフォメーション・コーナー……57

編集後記……61

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人　視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編集後記

日本の義務教育が完全に実施された昭和54年度も終りに近づいた。最近、盲学校では低学年ほど重複障害児の比率が高まり、教育内容や方法の工夫が積みかさねられている。今まで学校教育の機会を持てなかったこれらの子供たちが、その発達にふさわしい適切な教育を受けられるということはすばらしいことである。

しかしながら、従来盲児や弱視児の教育にたずさわってきた盲学校に大きなとまどいを与えた。特に、高等部における職業教育や卒業後の進路について、どうすればよいかという問題を提起した。実質的には重複障害児のための養護学校に変容しつつある中で、重複児でない盲児や弱視児の教育を小・中学校との交流で打開しようとする気運もみられる。また、三療の危機が叫ばれる中で、理療師の資質向上と関連して高等部の職業教育の分離が検討されてもいる。

このような背景の下に、今回重複障害児教育の現状と進路の問題をとりあげた。今後、授産施設など卒業後の生活を充実させるとともに、重複障害児の一生涯を見通して教育内容を再検討し、その方法を充実させることが問われているのである。

（K・Y）

視覚障害　1980年3月　No.46
年間購読料　2,500円（送料とも）
発行日　1980年3月1日
発行者　本間一夫
編集者　松井新二郎
発行所　日本盲人福祉研究会
〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号
日本点字図書館内
電話（03）200－1130
振替口座　東京　6－16103
印刷所　合同印刷株式会社
〒130　東京都墨田区業平2－9－13
電話（624）6111（代表）

協賛団体　日本点字図書館